

- 日野自動車、「デュトロ」・トヨタOEM「ダイナ200」等計7車種の電動式駐車ブレーキに不具合があるとしてリコール
16年4月28日～18年12月10日に生産した3万9351台
駆動モーターに接続するケーブル先端部の強度が不足しているため、停車前に駐車ブレーキを作動させるとケーブル先端部が損傷することがある。そのため、駆動モーターの動力が伝達できなくなり、警告灯が点灯するとともに駐車ブレーキが作動しなくなり、駐車中の車両が動き出す恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「Cクラス」の4気筒ガソリンエンジン搭載車3車種について、オルタネータを起因とする火災発生の恐れがあるとしてリコール
14年2月14日～18年4月2日に輸入した1万8490台
アイドル時の発電制御が不適切なため、整流器のダイオードが熱を受けて破損し、警告灯の点灯や充電不良を起こし、エンジンがストールすることがある。また、特定の組み合わせのダイオードが複数破損してショートすると、オルタネータに大電流が流れて発熱し周囲を溶損させることで、最悪の場合、火災に至る恐れがある。
- トヨタ自動車とBMWジャパン、トヨタ「スープラ」及びBMW11車種において、エンジン制御用コンピュータ(ECU)に不具合があるとしてリコール
18年12月18日～21年7月27日に生産した5836台
ECUの制御プログラムが不適切なため、始動直後にエンジンを停止する等の操作により、エンジンに逆回転方向の力が加わり、バキュームポンプ内の潤滑油が逆流して構成部品が損傷することがある。そのため、倍力作用が損なわれて制動停止距離が伸びる恐れがある。
- 三菱ふそうトラック・バス、「スーパーグレート」のプロペラシャフトに不具合があるとしてリコール
17年4月13日～21年3月1日に生産した1万3121台
エアサス仕様の大型トラック(4輪車)において、タンデムペラ(後前軸と後後軸間のプロペラシャフト)の長さ設定が不適切なため、タンデムペラが最も縮んだ際にスプラインシャフトがプラグを押ししまい、プラグが脱落する恐れがある。